

3 2018年7月15、16日岡山県倉敷市真備町被災支援活動

台風7号がもたらした湿った空気が流れ込み続け、西日本の広範囲で記録的大雨となった。倉敷市真備町では、7日朝までに小田川と支流の高馬川などの堤防が決壊し冠水をもたらした。



↑ ビジョンバンと現地参加スタッフ



↑ 岡山県眼科医会・兵庫県眼科医会・日本眼科医会の参加スタッフ

4 2019年10月22日 宮城県大崎市 台風19号による豪雨災害 被災支援活動

2019年10月12日夜から13日未明にかけ台風19号が東北地方を通過。宮城県で阿武隈川と吉田川流域で記録的豪雨となり河川が氾濫。

5 2024年1月20、21日 石川県能登半島地震 1.5次避難所での被災支援活動

2024年1月1日夕刻、能登半島でマグニチュード7.6、最大震度7の地震が発生し奥能登地域で甚大な被害が発生。1次避難所から2次避難所に移動するまで避難生活を送る1.5次避難所（額谷ふれあい体育館、いしかわ総合スポーツセンター）にビジョンバンは出動した。避難人数387名中、80名に眼科医療支援を届けることができた。



↑ 額谷ふれあい体育館にて



↑ いしかわ総合スポーツセンターにて



↑ ビジョンバン内での診察風景

ビジョンバン

〈眼科医療支援車両〉のご案内

災害時眼科医療支援・無料眼科健診・医療相談



どんな時も皆さんの目の健康を守ります

公益社団法人 日本眼科医会
JAPAN OPHTHALMOLOGISTS ASSOCIATION

1 東日本大震災からはじまったビジョンバンの生い立ち

東日本大震災発生直後から、宮城県眼科医会は東北大学眼科と協力し、のべ240日に渡る被災地眼科医療支援活動を行いました。その後も避難所と地元眼科診療所を結ぶ巡回バス（受診希望者送迎専用）を運行し、震災被災者への高いレベルでの眼科医療支援を提供しました。

この眼科医療支援は、日本眼科医会をはじめ全国のたくさんの眼科医療従事者のご支援により成し遂げることができました。その中でも、米国フロリダ大学から空輸された眼科医療支援車両（Mission Vision Van）の活躍は、目を見張るものがありました。

このMission Vision Vanは、米国で猛威をふるったハリケーン「カトリーナ」の際につくられた眼科専用の診療車です。この活躍もあって、有事における眼科医療支援に目が向けられるようになり、日本での眼科医療支援車両の必要性が注目されました。

このような経緯から、宮城県地域医療復興計画の一環で、宮城県から宮城県眼科医会に眼科健診車両事業が認可され、2013年2月眼科支援車両が作製されました。

この車両には、「ビジョンバン」という愛称がつけられました。2016年には、日本眼科医会に移管され、全国的な活動が行われています。



↑ 眼科医が直接目のチェックを行いますので、その場で健康相談も受けられます。

2 活動内容

ビジョンバンは、平時には健診を主体とした活動を、有事に際しては被災地支援活動を行います。具体的には下記の4つの活動を行っています。

- ①眼科総合健診・目の健康相談（仮設住宅団地等や、多くの県民が集まる場所）
- ②眼疾患啓発活動
- ③日本全国で激甚災害が起きた時の被災地支援
- ④眼科医療の啓発活動

3 検査機器

ビジョンバンは、眼科検査に必要な暗室機能を備えています。また、搭載可能な検査機器も豊富です。活動の目的によって搭載される医療機器の変更が可能であり、視力・眼圧・眼底検査といった基本的な眼科検査機器の他、ビジョンバン担当の健診医の判断により光干渉断層計（OCT）を用いた緑内障や網膜疾患の詳細な検査をすることもできます。これは、通常的眼科健診では行われぬ高いレベルの検査です。

平時における通常の活動では、日常診療である保険診療は行いませんので投薬等を受けることはできませんが、ビジョンバンでは様々な眼科検査機器を用いて通常行われているような眼科健診よりも、詳細な検査を行うことができます。

しかし、あくまでも健診ですので、診断のためには二次健診が必要になります。ビジョンバンでの健診で問題点を指摘されたら、最寄りの眼科医療機関で詳細な検査・診察を受け、目の健康を維持するようにしましょう。



← 眼圧・屈折測定

眼科の基本検査のひとつです。色々な病気を発見する糸口となる検査です。

光干渉断層計 →

黄斑変性・糖尿病網膜症などの各種網膜疾患や、緑内障に関する精度の高い検査ができます。



4 活動メンバー

特定健診や各種企業健診では、検査員が眼底カメラでの撮影や視力検査を行い、その結果を後日眼科医がチェックすることが多くなっています。

通常の健診とは異なり、ビジョンバンには必ず眼科医と専門の検査員（視能訓練士や眼科臨床経験のある看護師）が同行します。

それにより、通常よりも精度の高い健診が可能です。また、直接眼科医からの説明を聞くことができますので、健診を受けた方の理解度も深まることでしょう。

通常の活動は下記のメンバーにより構成されます。

- ①各都道府県眼科医会から派遣される眼科医
- ②視能訓練士・看護師
- ③事務

5 活動場所と期間

平成25年3月から、活動しています。

日曜日・祝日を主体に、活動を予定しますが、令和2年度から現在のところ、新型コロナウイルスの影響で、健診活動は休止しています。

感染状況をみながら、活動を再開していきたいと考えております。活動予定はビジョンバンホームページ (<https://www.gankaikai.or.jp/>) をご覧ください。

● ホームページ

<https://www.gankaikai.or.jp/>

6 今までの主な被災地支援の実績

1 2014年 フィリピン Yolanda 台風後の国際支援

2013年11月トラック諸島で発生、フィリピン中部を横断しレイテ島等に暴風雨や高潮による被害を及ぼした。死者・行方不明者は8000人超。日本眼科学会・日本眼科医会を中心に構成される災害対策委員会でビジョンバン派遣が検討され、翌年1月フィリピン保健省から派遣要請あり、フィリピン眼科学会の協力で、10日間で、1922名に眼科医療を提供した。



↑ ビジョンバン健診に参加した現地スタッフ



↑ ビジョンバン内での診察風景

2 2016年パラオ共和国での国際支援

アメリカ海軍を主体とするパシフィックパートナーシップ活動が2007年から行われ、2016年は日本の防衛省・自衛隊が担当した。ビジョンバンは、海上自衛隊の輸送艦でパラオ共和国に向かい、760名に眼科医療を届けた。



↑ 海上自衛隊により慎重に揚陸されるビジョンバン（防衛省・自衛隊提供）



↑ 希望者が殺到したビジョンバン健診